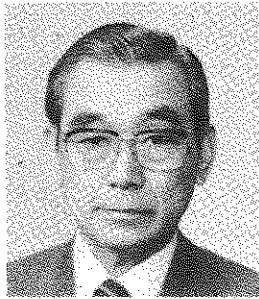


栃木県中学校長協会報

会長あいさつ



栃木県中学校長協会
宇都宮市立泉が丘中学校長
飯野 昭

昭和61年度栃木県中学校長協会総会に当り、公私ともに御多忙のところご来臨を賜りました来賓

の方々に、まずもって厚く御礼申し上げます。また、多年にわたり本県教育の第一線にあって、リーダーとしてご活躍ご指導をいただき、3月ご退職なさった40名の先輩校長各位に対し、深甚なる謝意を表する次第でございます。困難な中学校教育に骨身をけずり、誠心誠意、日夜精魂を傾けつくされたそのご苦勞を思うとき、現職をはなれた一抹の淋しさはあれ、大任を果してホッとした安堵感もございましょう。どうか、今後の生活が、健康に恵まれゆとりのある毎日でありますよう祈るとともに、後輩の私共に変わらぬご指導ご助言、ご鞭撻をいただければ幸いに存じます。

さて、「学校の荒廃」、特に「荒れる中学校」と言われ、校内暴力が社会問題として大きく取り上げられてから、かなりの年月が経ちました。学校教育に対する国民の期待は、むしろ厳しい要請ないし批判となつてうずまいた感さえあったのであります。われわれは必死に、校内指導体制の見直しをはじめ、基本的生活習慣の形成、わかる授業の徹底、教育相談、進路指導の充実、さらには家庭・地域・関係諸機関との連携強化等々、あらゆる手段方法を講じてその対応に取組み、日夜実践して今日に及んでいるのであります。幸い、昭和58年をピークにして校内暴力の鎮静化が言われ始めました。ただ、これはあくまで鎮静化の傾向であつて、激減でも根絶でもありません。そして

今、教育界を挙げてその対応に苦慮しておるのが「いじめ」の問題であります。(暴力は陰湿性残忍性を帯び、いじめという名の下で暗躍していると言えましょう。いじめは、われわれ教師の目にふれにくいところで行われ、被害者はほとんどが教師や親に訴えない。したがって、今いじめが進んでいるのかどうかを発見するのがいたって困難で、ともすると指導が後手に回り、取りかえしのつかぬ結果をもたらしがちであります。事実、いじめは、それが原因で「放火」を呼び、さらに殺人、自殺が出た。かくも残忍になったのか。何故に、かくも生命を粗末にするのか。何ともいたましくやり切れぬ思いであります。それらの事故に接するたびに、それを止められなかった指導のいたらなさ、力の足りなさに痛恨の思いと責任を感じざるを得ないのであります。勿論これらは急速な経済成長や情報社会の中で複雑な要因がからみ合つて起きており、学校だけの努力では根本的な解決は難しいし、そのような背景があるからこそ、臨教審が設置され、教育改革について精力的な審議が進められているわけであります。校長会としても現状にどう取組み、どう対処するか、まさに真価が問われているところであります。中学校を教育の場たるに相応しい姿に、一日も早く取り戻すこと、これはわれわれの切実な、しかも緊急な願いであり、決意をさらに新たに粉骨砕身努力しなければならぬ課題でなければなりません。

「強くなければ生きていけない。優しくなければ生きる資格がない。」これは尊敬する先輩校長の言葉であります。われわれは人生の先達として子どもたちに、生命の尊さと逞しくしかも思いやりの心あつた人間としての生き方を、日常生活活動の中でしっかりと体得させなければならぬと考えるのでございます。

去る4月23日、臨教審第二次答申が出されました。昨年6月、第一次答申が個性重視の原則を打ち出し、それが、教育の自由化論、教育の個性主義として、非現実的であるとの批判も多かったの

であります。今回も個性重視の原則は貫かれております。さらに、第三部会の六年制中等学校構想も、よほど慎重に対処しない限りマイナス面が多くなりかねないし、各県に1、2校できたからと言って、今日の行きづまった中学校教育にどれほどの効果が期待できようかとの疑問もあるわけです。だが、中学校長会としては臨教審の答申を批判するだけでは済まされないものでありまして、教育改革についてはわれわれ自身の問題として主体的に受けとめ、会員の意見を集約してさらに反映させる努力をする責任があります。全日本中学校長会もすでに幾つかの提言をしておるところ。また本県中学校長会においても、一昨年から生徒指導特別委員会に加えて、本年度、教育改革検討特別委員会を設け、現場の立場から必要な発言をしていこうとしているものであります。会員各位の率直なご意見とご協力を期待する次第でございます。

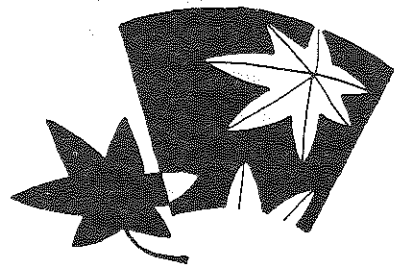
なお、この機会に全日本中学校長会栃木大会について若干申し上げたいと存じます。昨年の本総会において加賀美会長から63年度全日中研究大会が栃木県で開催されることに決定との発言がございました。研究主題も60年度以降「21世紀を拓く日本人を育成する中学校教育」として研究に着手しておるところでございます。本県も研修部が中心となって検討した結果、研究主題を全日中と同じくし、63年度まで変えることなく研究を進めることに決定をみたのは、ご案内のとおりであります。期日63年10月20日、21日の両日と決定されましたことを報告申し上げるとともに、研究その他諸準備に万全を期したいと存じますので、物心両面のご協力を特にお願いいたしたく存じます。

いま、中学校教育を語る口調ははげしく、見つめる眼はまことに厳しいものがあります。しかしその厳しい批判は言い換えれば熱い期待がこめられているからでもありますし、揺れ動く青年前期の生徒たちの心に確かな人生と生きるための強さやさしさを教える導師先達としてのよろこびを生甲斐と思ふべきでありましょう。私たちは、一人ひとりが校長の使命に徹し、結束して中学校教育の振興につとめ、先輩各位の築かれた「教育県栃

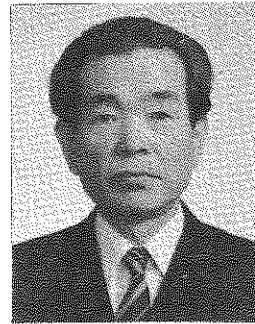
木」への力強い歩みを継承し、もって県民の期待にこたえなければならないと強く決意するものでございます。

最後になりましたが、重ねてご多用中にもかかわらずご臨席を賜わり、本総会に光彩を添えてくださいましたご来賓の方々に、会員諸兄とともに心から感謝申し上げあいさついたします。

このあいさつは、去る5月17日の県中学校長会総会の開会行事の折の飯野会長のあいさつです。



学校教育の課題



栃木県中学校長会副会長
宇都宮市立陽西中学校長
澤村三郎

1. 個に応じた指導

いま学校の抱えている問題は多様であるが、とりわけ、生徒自身が自らの人生をたくましく切り拓いていくことのできる意欲・能力をどう身につけさせたらよいか、という教育の本質的なことに注目をしたい。

登校拒否、問題行動、いじめの問題等現象的には急を要するものがあるが、これらの生徒たちを含めて究極的には、人の生き方にかゝる教育指導の充実策を考えていくことであろう。

いじめの問題にしる、問題行動にしる複雑な環境や心のひずみが背景にあり、これを適確に見抜き早期発見、治療に当たることは重要であるが、個々の生徒に合った生きる意欲と方向づけをどう図っていくかが、教師の技倆であり使命でなければならない。

学校は、組織をとおしての教育活動を推進しているが、生徒の個に応じた指導が重視されると同じように、個々の教師の資質や考え方が大きく影響を持つことは事実である。とりわけ学級担任のかかわり方が、今後益々その比重の大きさを増していくことであろう。

臨教審の中でも、初任者研修を始め、教員研修のあり方が論議されているが、現実に生徒個々との対応の中で、その資質を高めていくことが重要であり、そこに研修システムのむずかしさがあるものと思う。

私共校長に課せられているものの一つに教師の個性や特色を発見し、その意欲をどう方向づけてやるかということが大切のように思う。問題を指敵し、きょう正していく対症療法的、消極的指導は容易であるが、真に個々の教師の資質やよさを

認め、存分の活躍を援助指導していく努力に欠けていたことを私自身反省を深くするものである。

2. 学校教育の限界

社会生活の変化により、学習活動への関心は高度化・多様化し、生涯にわたる学習体系の移行に伴い、学校中心の考え方から、家庭・社会がそれぞれ教育機能を整えその要請に応える時機に来ている。

中学校における生活指導、進路指導等、とりわけ部活動の性格についても、将来の展望に立った望ましい指導のあり方について、方向づけが必要ではなからうか。部活動は、全面的に学校が責任と役割を持ち重要な教育活動に位置づけ、練習も試合も、勝つことに目標をおき、負けた時の体験を通して、困難に打ち克つ気力や体力を伸ばすその教育的意義は大きい。

生徒も早朝より夕刻まで練習に打ち込み、少年の日々を全力投球し、汗と友情のすばらしさを体得しうる貴重な経験の場であることは言うまでもないが、学校・家庭・社会の教育的機能の役割分担を考えたときに、この方向が最善であるかどうかについては、意見の分かれるところであろう。

3. 校内活動の重視

各種運動競技、文化活動も対外的な試合やコンクールが盛んであるが、より多くの生徒が参加可能な、校内における各種運動競技大会、展覧会、発表会等を重視し、教師と生徒の発想や協力による校内の諸行事を一層工夫し、充実したものにしていきたいものである。

対外的試合（行事）にかける競争心やその労力を、校内の諸行事に目を向け、一人一人の個性や能力を最大限に発表させる機会と場面を設定し、その努力の過程の中で、生徒と教師の人間関係が図られ、学校生活の充実感や協調と連帯の精神が培われていくものとする。

外に目を向けると同時に、我々の視点を身近な校内の生活や行事に、深い関心と意欲をもち、改めて自校の教育活動を見なおす、ゆとりと発想の転換が必要なのではなからうか。

一人一人の生徒が生きる、特色ある学校経営について腰を据えたいと思うこの頃である。

中学校教育の問題点と今後の方向

栃木県中学校長会副会長

佐藤 昇一



国レベルで現に進んでいる教育改革も、3年目に入ったといえる。

昭和60年臨教審の第1次答申が行われ、大学入試改善の共通テスト、受験可能校の複数化などが実施に移されようとしている。

61年は、4月に第2次答申が行われ、“国際化社会の中の日本”を柱とする方向が明確に打ち出されている。呼応する形で、教育課程審議会に対し、幼・小・中及び高校の教育課程の基準改善について諮問が行われた。そして、早くも生涯教育につながる幼稚園の学習面の充実、小学校低学年の生活科新設がかなり具体的に示されている。

このような動きの中で、中学校教育については、今のところ六年制中学校の検討がなされているが、さして大きな改革案は示されていない。中等教育に問題はないかという、そうではあるまい。

まず学習指導面である。中学校教育課程実施状況に関する調査の結果発表『中等教育資料』によると、5教科の平均通過率は60~70%であり、過去の学力調査と比較しても成績は向上しているという。ひき続き、こうした教育水準の維持は重要課題である。

次に生活指導面である。校内暴力・いじめ等の問題は鎮静化の方向にあるとはいえ、大きな社会問題であった。それぞれの学校で真剣にとり組んでいるが、依然本県でも楽観できない状況は続いている。

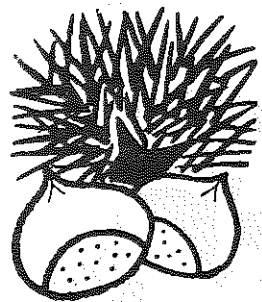
このような問題を受けて、21世紀に向けての中学校教育のあり方を思いつくまま述べてみたい。第1は、個に応じる教育の充実である。従来もさ

かんにいわれてきたことであるが、優れた実践校と一般の学校間には断層がある。多様な個性や能力を持つ生徒に対して方法や形態に工夫が足りないと思う。講義中心の一斉指導にかたよりがちである。生徒の健全育成という視点からも、個人差を正しくとらえ、わかるという状態を経験させてやらなければならないだろう。

第2は、国際人の育成である。これに関しての急務は、日本の伝統や文化を世界史的な視野からとらえることである。言葉・芸術・思想・美意識・生活感覚などにわたって、日本と諸外国との比較をして、その特色をきわだたせていくことが大切である。そして、とりあえず、日本のよさを説明できる程の感覚を身につけさせていきたい。

第3は、コンピュータの導入である。中学生のこうした情報機器とのつき合い方がうまいのは想像以上である。授業の中での活用は、今後の実証的な研究に待つところ大である。

教職にとどまる時間が残り少なくなってしまった。若い教員に多くを伝えていきたいと思いつながら、現状の問題点と今後の中学校のあり方を述べた。



専門部の活動計画

研修部

部長 前原 二三男

- 6月5日 一条中にて専門部会開催
 - 部長に前原二三男校長
副部長に手塚勝久校長、塚原規矩郎校長を選出した。
 - 本年度の年間事業計画の作成と推進のための協議を行った。

- 7月9日 研修部会 教育会館にて協議事項

第8回栃木県中学校長会研究大会
昭和61年9月5日(金) 泉が丘中にて
研究主題
「21世紀を拓く日本人を育成する中学校教育」

趣旨

激動する世界情勢の中で、日本人の果たす役割と責任は、今後ますます増大していくことが予測される。このような時にこそ21世紀を展望し、豊かな文化の創造と民主的な国家・社会の発展に努め、進んで国際社会に貢献出来る日本人を育成することが重要課題である。

よって学校経営の責任者である校長は、これまでの研究成果を踏まえ、かつ教育改革の動向をも考慮しながら研究主題に果敢に取り組み、中学校教育の一層の充実発展を期するものとする。

- 昭和62年1月 研修部会
今年度の反省と次年度の研究主題について協議する。
- 2月末 研究集録第9集刊行予定

職員対策部

部長 榆木 定治

昭和61年6月5日(木)、宇都宮市立一条中学校で部会を開き、本年度の組織及び計画を協議し、次のように決定した。

- 役員選出
部長 榆木 定治(宇・星が丘中)
副部長 栗原 晃(河・上河内中)

調査部

部長 床井 義久(宇・晃陽中)

副部長 新澤 彦治(河・古里中)

加藤 登(塩・北高根沢中)

- 主な事業計画
 - 全日中調査部との共同調査である「中学校教育に関する調査」の実施。
 - 県中学校長会ならびに各専門部会活動に必要な調査と資料提供。
 - 他県中学校長会、教育団体との連携と資料の交換
 - 調査結果や収集資料の配布。

2. 中学校教育に関する調査

去る5月、各校悉皆による調査を実施し、その積み上げと県教委を始め関係機関からの資料による両面作業で、広範多項目にわたる調査票の記入を完了し、6月13日全日中に送付する。

過日、全日中より各校に調査の集計結果が送付されたことと思います。

この調査に当って、特に県教委義務教育課、高校教育課、保健体育課の各先生方に絶大な御協力を賜ったこと、また、全県下の校長の御協力、特に各地区調査専門部員のお骨折りに対し厚く感謝申し上げます。

なお、先年度と同様にこの調査の初回(昭和48年度)ならびに前年度と本年度との比較を行い、参考に供したいと存じます。

比較項目	昭48.4.1	昭60.5.1	昭61.5.1	
給料	初任給(大学卒)	51,900円	126,700円	133,200円
	勤続10年	78,400円	212,500円	206,700円
	勤続20年	111,800円	294,100円	309,600円
	勤続36年(校長)	146,400円	394,100円	404,700円
旅費(1人当たり/年間)	24,100円	66,300円	76,137円	
校長退職年金(勲奨)	58才	60才	60才	
生徒数	78,836人	92,641人	95,543人	
教員数(校長、教頭、教諭等)	3,588人	4,176人	4,346人	

副部長 花塚 發 (塩・矢板中)

(2) 年間計画

11月下旬、宇都宮市内中学校で研修会開催

(3) 研修の内容

①昭和61年度人事院の給与勧告

・改訂の内容、給料表・諸手当など

②本県教職員数の実態と課題

- ・教職員(職名別)数
- ・年齢別教員構成
- ・勤務年数別の教員構成
- ・出身学校別の教員構成
- ・中学校における担当教科・週授業時数等

③退職と退職後の生計

(ア)医療制度

- ・任意継続組合員制度
- ・国民健康保険制度
- ・継続療養
- ・短期給付

(イ)退職手当

- ・退職手当の種類
- ・継続期間の計算
- ・退職手当の計算
- ・各種課税等

(ウ)退職年金

- ・年金の計算と支給方法
- ・厚生年金との調整

☒修学旅行部会

1. 活動計画

- 61・6・修学旅行部会総会・昭和61年度の反省、活動計画の作成・役員改選
- 61・7・63年度(現1年)の新幹線利用希望調査(関西・東北)・61年度修学旅行実施状況調査。
- 61・9・63年度輸送計画検討
- 61・12・関修委研究発表会参加
- 61・12・近畿の旅希望調査

2. 関修委関係活動計画

栃木・群馬・茨城・千葉・埼玉の五県で関東地区公立中学校修学旅行委員会(関修委)を組織し修学旅行の実施計画(組み合わせによる団

体編成、実施期日の決定)を立てています。県の修学旅行部会と密接な関係にあります。

- 61・5・総会・事業計画立案・役員改選
- 61・8・要保護・準要保護児童生徒ならびにへき地児童生徒に対する修学旅行等の国庫補助金増額について文部省に陳情。
- 61・8・修学旅行現地研修会(東北方面)
- 61・9・63年度輸送計画基本線確認
- 61・11・63年度輸送計画(5県の)決定。
- 62・2・研究発表会(千葉県)

備考

関修委の会長は各県持ちまわりで中学校長会会長があたることになっており本年は栃木県の番で飯野昭校長が会長を務めています。

古都税をめぐる問題で京都の有名寺院が7月1日以降の拝観停止を決定していましたが6月16・17日の両日関修委を代表して飯野会長と大関事務局長(関修委)が関係者とともに、京都仏教会・清水寺・広隆寺等10か寺に修学旅行生に対する開門を要望してまいりました。その結果7月に入ってからも修学旅行生に限り開門を続けることになり、7月実施校も支障なく計画どおりの修学旅行を実施することができましたので報告いたします。

☒進路対策部

部長 関 平

進路対策部では、高校入試のあり方が中学校教育に大きな影響を及ぼすことを考慮し、例年「高校入試の改善と中学校の進路指導」をテーマに、研究を重ねているが、本年は、そのテーマの研究に入る前に大きなことがあり、解決に苦慮した。

それは、国公立大学の入試(特に合格発表)にからんで、公立高校の入試期日を62年3月3日頃、発表を6日頃にした旨の、高校校長会側よりの申し出に端を発する。

現在までの高校入試制度は、県教委が実施するものではあるが、例年、進路対策部会の中でも紳士的話し合いをもとに検討が加えられ、各機関での話し合いの内容とともに改善されて来ている。

しかし、今度の連絡は、中学校側にとって寝耳

に水の驚きであった。直ちに緊急理事会をもち、その対応を検討、更に、臨時進路対策部会で具体的検討を加え、高校長代表者との懇談会に臨み、さきの新聞発表(8月20日付)の結果を得た。

この間における、各中学校長の先生方の力強いご支援、ご協力に対し、第一にお礼を申しあげたい。また、すばらしいリーダーシップを発揮され県下中学校の総意をおまとめいただいた、飯野校長会長の卓抜な指導力にも、心から敬意を表したい。

だが、問題はこれで終わったのではない。何よりも、その年度の教育課程編成の段階で、入試期日が決定していないこと、例年、年度の途中で要項が決定され、それに付随して卒業式の日が決まることに少なからず疑問を抱く者も多い。勿論高校入試発表と卒業式とは関係ないと言うこともできるが、本県の場合、公立高校依存者は高校入学者の約70%であるが、本人や親の希望、つまり、ほんとうに入りたい高校は殆んど公立で、その意味で、潜在依存度は90%を大きくこえている現状から考えると、公立合格発表の前日卒業式を中学校は希望せざるを得ないし、中学校の大きな問題だ。

この意味において、例年、3学期に翌年の教育課程が編成されるが、その段階までに、公立高校の入試要項のうち、入試、発表の期日だけは決定され、それをふまえての卒業式の期日を決定しておくことは、どうしても必要なことと考える。

ひとりよがりの意見であるので、各先生方のご意見をおきかせいただきたい。

☒福利厚生部

- 1. 部長 澤村 三郎(陽西中)
- 副部長 伊澤 正守(本郷中)
- “ 関 清(船生中)

2. 活動計画

- (1) 6月5日(木) 於 一条中学校
本年度の組織づくり
活動内容・計画の作成
- (2) 8月30日(土) 於 県教育会館
生徒手帳の編集内容の検討
福利厚生の内容の検討

(3) 10月11日(土) 於 県教育会館

「中学生の安全」編集会議
福利厚生事業の検討

(4) 11月下旬 於 県教育会館

「定年制、年金、退職後の医療制度等について」

講師 県教委河内教育事務所学務課長 (予定)

共催 職員対策部

(5) 1月31日(土) 於 県教育会館

道徳教育資料「中学生の新しい道」編集会
福利厚生部の反省と次年度の計画

3. 本年度の課題

従来、福利厚生部は、生徒手帳、安全 育、道徳資料推せんなど、校長会の事業部的性格が強かったので、教職員の福利厚生に係る内容を一層検討し、その充実を図るよう、研修を深めることに努力したい。

☒教育改革検討特別委員会

委員長 柳田 明

1. 昭和61年6月5日(木)、一条中で委員会を開き、組織と計画を協議し、次のように決定した。

(1) 役員選出

- 委員長 柳田 明(宇・一条中)
- 副委員長 吉成 達夫(塩・片岡中)
- “ 茂呂 保雄(足・足利北中)

(2) 事業計画

- 6月5日(木) 委員会開催
・委員長、副委員長の選出
・年間事業計画の作成
・事業計画推進について協議
- 7月24日(木) 委員会開催
・全日中資料(提言、今後の検討事項一覧)等により、全般的検討をする。
・問題点をしぼる。
- 8月29日(金) 委員会開催
・緊急課題について研究討議をする。
- 11月か12月に委員会開催
・当委員会としての一応のまとめをする。

2. 協議経過（8月1日現在）

7月24日開催の委員会における協議内容
 ○今後の検討のあり方について協議した。
 その結果は次の通りである。
 ・第2次答申のうちで、中学校教育に関するものをとりあげていこう。
 ・県中学校長会として、何を為すべきかを考えていこう。
 ・県段階としての問題点は何なのかをしばっていこう。
 ・直ぐに結論を出すということではなく、長期的構えで進もう。
 ○足利地区での研究「21世紀に向けての教育の基本的なあり方」をもとにして研修した。

☑ 生徒指導特別委員会

委員長 下里 信 弘

研究テーマ

不登校生徒の指導の実態及び今後の対策

研究のねらい

各中学校における不登校生徒の指導状況、指導上の悩み、今後の対策等を明らかにすることによって、不登校生徒のより良い指導の手がかりを得る。

研究の方法及び調査のおもな内容

県内の市町村立中学校に調査用紙を配布し、その回答を下記の諸点からまとめる。

- (1) 不登校生徒の指導法や指導上配慮した点、指導上の悩みなど
- (2) 不登校生徒の進路先など
- (3) 不登校生徒に対する今後の対策など

なお、まとめには不登校生徒の指導事例を加える。

研究（活動）の経過と研究（活動）計画

期 日	場所・会議の種類	研究（活動）内容
6/5	宇・一条中 (全体)	○部長・副部長選出 ○年間事業計画の作成
6/17	県教育会館 (全体)	○研究の方向・及び方法 ○研究計画の細部検討
7/12	宇・瑞穂野中 (役員)	○調査依頼状、調査用紙、回答用紙(案)の作成
7/15	県教育会館 (全体)	○調査依頼状、調査用紙、回答用紙(案)の検討
8/29	県教育会館 (全体)	○調査実施上の留意点の検討 ○各地区代表に調査用紙等を配布
9/1~		○調査実施
9/30		○回答用紙を回収 (各地区)
10/10		○各地区ごとに回答を集計
10/27	県教育会館 (全体)	○回答の全体集計 ○まとめの検討
11/下	未 定 (全体)	○まとめの検討
1/初		○まとめ完了

関ブロ中学校長会埼玉大会に参加して

宇都宮市立国本中学校長 齋 藤 操
 「21世紀を拓く日本人を育成する中学校教育」
 ——生涯教育の理念に立つ教育の実践を目指して——をテーマにして、第38回関東甲信越地区中学校長研究協議会埼玉大会が去る6月12日、13日の両日1,230名の参加を得て浦和市の埼玉会館を中心として、9分科会場で盛大に開催されました。

日程の概略はつぎのとおりでした。
 12日(木) ○開会式 ○文部省説明 ○全体協議
 ○アトラクション ○分科会
 13日(金) ○全体協議 ○講演 ○閉会式
 本県からも県中学校長会長飯野昭先生以下60名が研究協議に参加しました。

さらに第6分科会で「自己教育力を高める特別活動のあり方」と題して、小山市立第3中学校長小林理一先生が提案された。先生には「子どもの主体的な発想、意欲、態度を大切に、自づからの行動を通して、体得する過程を重視しながら個性特質の伸長を図る特別活動の創造と実践が必要である」と結ばれ、すばらしい提案であり、本当に重責ご苦労さまでした。

また、「教育改革の方向と当面の課題」臨教審第2部会長・東大教授石井威望先生の講演がありました。

「今や日本の半導体の技術面のすばらしさ、日本の経済が世界経済へと連動し、農業国から工業国へ、後進国から先進国へ、貿易も横浜から成田など大きく様変わりして来た。子どもの遊びも集団から個別化へ、ファミコンからパソコンへ、さらに世界長寿国へ、半導体は毎日が学習であり世界から遅れをとる。教育も企業闘争から負けてしまう、知識の激動する時代となった。それには今や追いつく教育から追い越されぬ教育にするためには、もはや学習をたのしむ即ち自己教育力を身につけるなどの教育改革が必要である」との講演であった。21世紀に生きる子どもに目を向け自己教育力をつけるには校長の活力いかにによる。

地区だより 下都賀地区

(1) 郡中学校長会の研修活動
 下都賀郡中学校長会は8町11校で構成されている。会長は石橋中榎本和平校長。その事業の大部分は研修活動で、本年度は県中学校長会の研修主題を受けて「学校経営の活性化を図るための校長のリーダーシップ」を探索している。具体的には、4月主題設定、5月内容の理論研究、6月5校による研究提案、7月以降会場持ち回りで残り6校による実践発表、10月県外教育事情調査、1月研修のまとめ、という計画で進めている。

(2) 関係機関・団体等との連携
 小中学校長連絡協議会、中高連絡協議会、学校警察連絡協議会等との連携については、他地区と同様と思われるので省略する。ほかに、本地区では市町村教育長会との教育懇談会を定期的に開き、校長会側からの提案や協議が行われている。

(3) 各中学校の近況
 都賀中 生徒の活性化を学校課題に、全職員が授業研究や生徒会活動の推進に努力している。
 壬生中 統合6年目。北関東一と言われる施設設備を生かして学校経営も順調に進んでいる。
 南犬飼中 急激な都市化現象で生徒数も急増、恵まれた施設の中で調和ある学校経営に努力中。
 石橋中 大きな海と優しい心をテーマに、初めて2年生が仙台～苫小牧の洋上宿泊訓練を実施。
 国分寺中 寝たきり老人の慰問やサイクリングロードの整美など生徒の奉仕活動を活発に実施。
 大平中 59年度に南中を分離、生徒数778名の適正規模となる。校舎改修第2期工事中。
 大平南中 県教委の指定を受け同和教育の研究に取り組む。10月28日に公開発表会の予定。
 野木中 夏休みに小学校等を借りて生徒が早朝自主トレーニングを実施するなど部活動が活発。
 藤岡一中 礼儀正しい生徒の育成を目ざす格技指導を主題に文部省指定研究学校に取り組む。
 藤岡二中 「きのうよりきょう」の合い言葉で躍動する学校づくりに努力している。
 岩舟中 夏休みに2泊3日で生徒会リーダー訓練を実施するなど生徒の自主活動育成に努力。

61年度 新設校紹介

河内町立河内中学校

本校は昭和61年4月開校であるが、古里中との分離決定は昭和57年11月であった。59年用地買収、粗造成、起工式、60年校舎建築工事、体育館建築工事を実施、61年3月27日に竣工式を行っている。

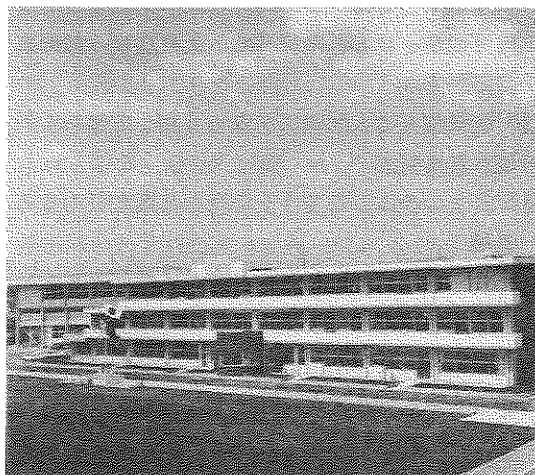
用地費、用地造成費、体育館建築工事で約19億6千万、61年7月末に完成したプールその他の費用が1億余の経費であるから計20億余円かかっていることになる。河内町の一般会計予算が60年度42億、61年度37億であるから、町の年間予算の約半分を学校建築に使っていることになる。宇都宮のベッドタウン化した本町はここ10年の間に小学校2校（岡本西、岡本北）、中学校1校の計3校を建築したことになり、町としても相当の苦労があったものと深く感謝している。

校舎は普通教室18、音楽室2、美術室1、理科室2、被服・調理室各1、保健室1、放送室、スタジオに連結した視聴覚室1、和室1、職員室・会議室各1、多目的教室、木工・金工室各1、図書室、給食調理室（ドライ方式）、校長室等である。本校校舎・体育館の特徴は、①約200名収容できる多目的教室、②多くの予算をかけた放送室、視聴覚室、③2階建ての体育館（1階柔剣道場、ミーティングルームなど、2階アリーナ）、④広い廊下とあちこちに設けられているミーティングスペース、⑤給食調理室のドライ方式、などであろう。多目的教室（アコーデオンカーテンで仕切ることができる。）と教か所のスペースは、種々の会合に実に便利であり、学年集会、保護者会、各部のミーティング、種々の研修、生徒の小グループの会合等に利用されている。多目的教室では、机と椅子を入ると学年全体で同一内容を学習することもできる。視聴覚室は正面に100インチのスクリー型テレビがあり、各局テレビ番組、ビデオ、VHD（絵の出るレコード）、教材提示装置による各種資料や実物、スライド、フィ

ルム等を映し出すことができる。テレビによる校内放送は2台のカラーカメラを使い、ミックス・合成もできる。調整室は出窓型に半円状に突出しており中継放送に便利になっている。現在の利用状況は、視聴覚室は教科、クラブなどで希望が多く調整しながら使用、放送室は生徒会放送部の活躍場面として利用されている。

生徒数各学年5クラス594名、教職員31名、（教員平均年齢35才）の中規模校である。

今、全職員は教育目標の具現化をはじめとして、伝統・校風を築き、地域にどっしりとした根をおろした存在感を求めて、生徒と共に悪戦苦闘しているところである。



黒磯市立黒磯北中学校

黒磯中学校の生徒数激増によるマンモス化解消策として、52年、日新中学校、55年、厚崎中学校につづいて3度目の分離新設校として黒磯北中学校が開校しました。

国鉄黒磯駅の北西3.6kmの緑豊かな環境に恵まれた40,000㎡の校地に21世紀を旨とする多目的教室等、生徒の自己教育力を育てる空間を多くとり入れた近代設備を誇る管理・特別教室棟、普通教室棟、技術教室棟、体育館等が建設されました。

「すすんで学ぶ生徒」「最後までやりとおす生徒」「人のためにつくす生徒」を旗がしらにかかげて、責任・協力・連絡体制のもと、創り出す心をひきさげて前進する教職員25名。

「さわやか黒磯北中運動」を展開し、よい校風と伝統づくりに邁進する生徒会（生徒数522名、普13学級、特1学級）

緑化活動、図書室整備等、奉仕活動に徹しながら会員の意識高揚、組織強化など目覚ましい活動をしているPTA（会員数455名）

開校のロマンは、さらに、行政区長さんを先頭にして地域住民の強力なバックアップのもと、地域ぐるみで学校の基礎づくりに燃えています。

弔 前姿川中学校長、田嶋康男氏には、昨年暮以来、病氣療養中のところ、薬石の効なく、去る5月28日永眠いたしました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

葬儀当日、本会を代表して飯野会長が弔辞を述べましたので、ここに掲載いたします。

弔 辞

謹んで故宇都宮市立姿川中学校長田嶋康男先生の御霊に申し上げます。

先生は忽然としてこの世を去られました。必ずや近く健康を回復され、学校に、校長会に復帰されるものと信じて疑わなかったのですが、余りにも厳しい現実に私達はいま茫然と立ちつくしています。

顧みますと先生は、その卓越した識見と指導力とをもって、はやくから本県理科教育に優れた業績を挙げられたばかりでなく、学校経営においても、校長として誠に顕著な業績を残されたのであります。物事にこだわらぬ豪放磊落さと企画力の緻密さとを併せもち、人に接するに思いやりの心厚く部下の面倒見の良さ、人間味あふれる言動は私達のもって範とすべき、まさに信頼と敬愛を一身にあつめておったのであります。困難な多くの問題を抱えている現在の中学校教育を思うとき、現場の校長として要請され期待される指導者像を私は田嶋先生にみると考えておりました。今先生を失った教育界の損失は測り知れぬものがあると申しても過言ではありません。入院していても、つねに生徒を思い、学校を考えて、校務運営の細部にわたって吉田教頭と打ち合わせ、また適切な指示を与えておられたのを見、また聞き及んでおります。最後の最後まで、生命のある限り教育者の本分に徹し、学校復帰をねがい、飽くなき情熱の灯をともし続けた先生の心中を察するとき、涙あふるるを禁じ得ません。

われわれは先生の遺跡を継ぎ、一致協力して中

学校教育に精魂を傾け努力をいたしたいと念ずるものであり、ここにそれを田嶋先生に告げて冥福をお祈りいたします。先生は今後は在天の輝く星となって私達を導き永遠に私共の心に生きて教育界をお守り下さい。

昭和61年6月1日

栃木県中学校長会 会長 飯野 昭
宇都宮市中学校長会

あ　と　が　き

長く暑かった夏休み終了。如何お暮しでしたか。文化、芸術、スポーツ、読書、食欲 etc と盛沢山の秋到来。校内外とも多忙が予想されます。ご苦労が多いことと思います。ご健康に留意され、ご活躍下さい。

遅くなりましたが65号お届けします。暑さと戦いながらのご執筆に感謝いたします。

次回は1月下旬発行の予定です。

編集部長 野 澤 榮 (旭中)
副部長 星 野 享 央 (田原中)
" 高 沼 理 夫 (荒川中)

